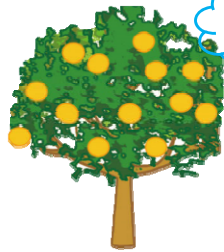
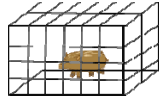


- 警戒心が強く通常の箱罾では捕獲しづらくなった個体を捕獲するために地元企業と連携しICT捕獲罾を開発
- スマートフォン等と連動した遠隔操作による捕獲装置を、平成27年6月に「ハンティングマスター」として商品化
- ICT捕獲罾の導入により、警戒心の強い捕獲しづらくなったイノシシを群れごと捕獲
- イノシシM・U・A組合を設立し、ICTに係るランニングコストは地元から支援（中山間地域等直接支払交付金）

西予市の課題

- 西予市は、温州ミカンをはじめとした柑橘類の栽培が盛んな地域であるが、近年、イノシシ被害が深刻化
- 段差や急傾斜の樹園地では、侵入防止柵の完璧な設置が難しく、設置してもイノシシは弱部を破壊し侵入し、農家は対策に苦慮
- 市の補助により、平成24年度に大型罾を導入したところ、導入当初は捕獲できていたが、イノシシの警戒心が強くなり、次第に捕獲が困難な状況
- 平成26年度から地元企業と連携し、ICT捕獲罾の開発に着手

また幼獣か～



あれは危ない坊や(ToT)

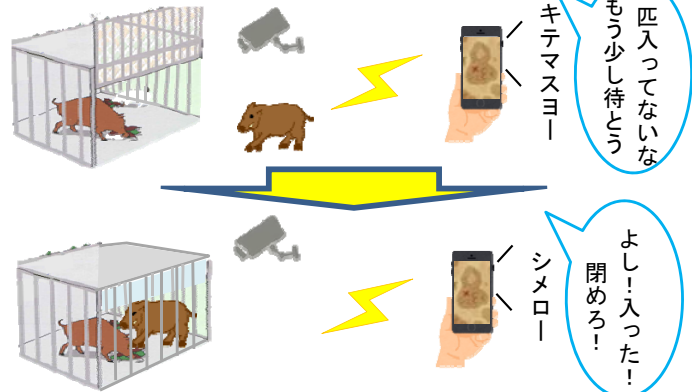


ICT捕獲罾の導入

ICT捕獲罾「ハンティングマスター」（ライブカメラとスマートフォンやパソコンと連動した遠隔操作による捕獲装置）を導入

【システムの概要】

- センサーがイノシシを感知すると、捕獲従事者にメールを送信
- スマートフォン等でライブ動画を確認
- スマートフォン等の遠隔操作で最適なタイミングで罾の扉を閉め捕獲



最適なタイミングで操作することにより、**イノシシを群れごと捕獲！**

導入の効果

【平成27年以降の導入状況】

大型罾：5基
ハンティングマスター：2基
（取外し可能なため大型罾5基で兼用）
導入経費：罾60万円～、システム50万円
通信費等：7,560円/月

【ICT捕獲罾による捕獲実績】

平成27年度：27頭
平成28年度：18頭
平成29年度：27頭
・ 本地域での年間捕獲頭数は約100頭
・ ICT捕獲罾を導入した近隣園地では、農作物被害が軽減

【+αの効果】

- ・ 農家のイノシシに対する見識が深まり、罾の改良等を農家が自主的に実施
- ・ 狩猟免許を取得する若者が増加するなど、自主的な活動による人材育成

その他の取組

- ・ 本地域では、捕獲従事者、担い手農家、中山間集落協定関係者等から組織される「イノシシM・U・A組合」を設立し、捕獲を実施
- ・ イノシシM・U・A組合に対して中山間地域等直接支払交付金の協定集落から、ICT捕獲罾に係る通信費等に対して支援

きっかけ

箱罾に対するイノシシの警戒心が強くなり、捕獲しづらくなった。

Step1 (H24)

大型檻の導入

- 市の補助金を活用し、大型檻を4基導入
- 導入当初は順調に捕獲できていたが、次第に捕獲しづらくなった。

Step2 (H26)

自動トリガー装置の導入

- 県の働きかけにより、大型捕獲檻の1つに、赤外線センサーによる自動トリガー装置を取り付け、捕獲実証を開始
- 自動撮影カメラで捕獲の様子を撮影。多くの捕りこぼしが判明

Step3 (H26)

認識の共有

- 関係者で下記の認識を共有
- 一度の捕獲で群れごと捕獲することが理想
- 自動トリガーによるイノシシ任せのタイミングでは確実性に欠ける

Step4 (H27)

ICT捕獲罾の開発

- 県内のICT関係企業と連携し、ライブカメラを利用した捕獲装置(スマートフォン等と連動した遠隔操作による捕獲装置)の試作機を導入
- 平成27年6月に「ハンティングマスター」として商品化

Step5 (H27)

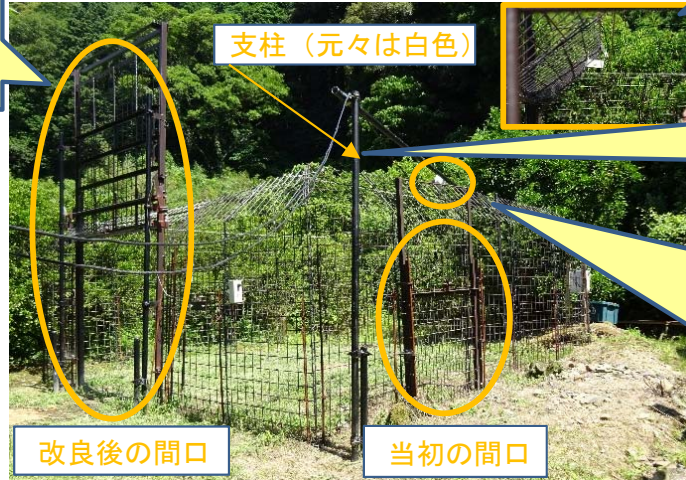
ICT罾の導入

- 4基の大型檻と高価なシステム1基で効率よく捕獲するための体制と運用方法を検討(現在は大型檻5基、システム2基)
- 各檻ごとに責任者(捕獲免許所持者)を配置
- 檻管理者、中山間集落協定関係者等によるイノシシM・U・A組合を設立し、中山間地域直接払交付金の協定集落から、ICTの通信費等を支援(同交付金)

鳥獣交付金を活用

- 間口が狭くイノシシが警戒し入って来なかったため、間口を広く改良
- 止刺し用の間口がないため、間口に箱罾を置き、箱罾に誘導し止刺し

- 電源は車のバッテリーとソーラーパネル(予備)を併用
- バッテリーの残量は携帯に表示され、電源切れを防止



- よじ登って脱走したイノシシがいたため返しは必須

- 支柱やカメラが白色だとイノシシが警戒していたため、支柱は黒色、カメラは迷彩柄に変更

- カメラを間口の正面に設置すると、イノシシが警戒(画面上で目が合う)し、どの程度檻に入ったかの確認も困難なため、カメラは間口に対し直角の位置に変更

こっち見る!?



取組による成果

- 画像によりイノシシの特性を把握(みかんを啜って持って行くこと等)
- イノシシは警戒心が非常に強かつ賢いため、根気強い餌付けが必要
- 今回の取組を通じ、地域住民のイノシシに対する見識が深まり、狩猟免許を取得する若者が増加するなどの波及効果

今後の課題

- 餌付け開始から捕獲するまで平均1か月程度(長いと2か月)かかっており、捕獲までの期間を短縮する必要
- 狩猟を趣味にしている猟友会員は、積極的な捕獲に消極的(撃つ個体が減ってしまう)で、農家との間に認識の相違

取組を経て: